



『HOT WOMAN』 中村修三画

戦後青年運動の一側面（上）
——だん王と青年団の活動——
信ヶ原 良文

京都のヴォーリズ建築探訪
奥村 直彦

私の京大事件と
映画「わが青春に悔なし」（下）
小畑 哲雄

一一〇〇三年度総会のお知らせ
燎原文芸

須田 稔
編集後記

戦後青年運動の一侧面（上）

—だん王と青年団の活動—

信ヶ原 良文

戦後に京都府社会教育課に勤務しましたが、市内の青年団体や府下の青年団から招かれて講演会や座談会に出るようになり、どの会場に出掛けても青年団体が自由に討論したり、他の団体と交流会をしたいと思っても、会場がなくて困っている。どの団体も悩みの種だとわかったのです。交流会を通して他の青年団体の活動や経験に学びたい、というのは当然の要求でした。

今でこそ、どこへ行つても公民館や青少年会館がありますが、戦前は、何事も上意下達でしたから、自由に集まつて討論することなど出来るわけがありません。戦になつて、言論の自由と民主主義の世の中になると、集会場が必要になるのは当然です。

青年の家の誕生

或る日のこと、西村清一課長から、いきなり「君んとこのだん王を青

年たちに解放してやることは出来

んかね。役所としても市内の青年と、府下の農村青年の交流や学習の場として、地理的にも申し分ないし、第一青年たちに仏教の話や人生観について指導してもらえば、君にとつても良いことだと思うし、青年たちも人間的な勉強が出来るし、ねえ」と言われて、内心では是非やつてみたい、と思いながら即答は出来なかつたのです。

この頃だん王では、時代の大きな変革の中で、悩み多い青少年の問題や子供の問題について、何でも気軽に相談できる「青少年相談所」を開いたのです。そして「文化講座」と共に、超宗派で「仏教の現代化」と民主主義についての懇談会を開いていましたので、講師にお願いしたり、或は京大楽友会館の「民主主義講座」に参加したり、青年団体指導者養成講座に講師をお願いしたりして、親しくしていた、

京大の重松俊明先生をはじめ、末川博、島恭彦、フランス文学の新村猛、同志社大学の岡本清一、立

命館大学の前芝確三、龍谷大学の星野元豊など、錚々たる大先生が、青年たちから思い付かれたもので、大変素晴らしい名前だと思いました。「青年たちから思ひ付かれたもので、大変素晴らしい名前だと思いました。」
西村課長も学者先生も、青年たちも「ピッタリ、良い名前や。」と大いに喜んでいました。

学者の新村猛先生が、フランスの西村課長も学者先生も、青年たちも「ピッタリ、良い名前や。」と大いに喜んでいました。
西村課長も学者先生も、青年たちも「ピッタリ、良い名前や。」と大いに喜んでいました。

星野元豊など、錚々たる大先生が、青年たちから思ひ付かれたもので、大変素晴らしい名前だと思いました。西村課長も学者先生も、青年たちも「ピッタリ、良い名前や。」と大いに喜んでいました。

学者の新村猛先生が、フランスの西村課長も学者先生も、青年たちも「ピッタリ、良い名前や。」と大いに喜んでいました。

(3) 2003年5月15日

原 燐

月に一度は、連合青年団長又は团长会議（副所長会議）を開いて、青年の家の運営や、各地域の活動報告をしよう、などが決まったのです。

それ以来、青年たちが毎日入れ替わり立ち替わり出入りをするのですが、若者たちはみな純真で、

それに本堂での開所式の誓いが、組織的によく徹底しているようで、とても感心し、安心したのです。

会員として登録された、府下各地域の青年たちや、女子青年、市内各地の青年会の幹部や学生会員たち、約三十人から多い時には五十人ほどが、いつも集まりました。若者はいいなあ、と思ったのは、初対面の市内の青年も、府下の青年も、いくらはげしい討論をしあふても、まるで友人のように仲良くなるのです。

それに、青年たちが自主的に開く、青年運動交流会は、とても活気があつて、楽しいのです。

青年の家の活動

京都府は、地理的に北は丹後から南は山城まで南北にわたって広く長く、青年たちは農村や農山村、漁村や農漁村、大都市、小都市などさまざままで、それぞれ職業や生活条件、自然環境なども違うのです。

そのうえ暮らしの実態も違うので、青年団をつくるまでの苦労話や、男性と女性が一緒に団体活動をすることへの大人の干渉や、親の抵抗などを乗り越えてきた青年たちの話は、それぞれの地域性を反映して、交流会はとても生き生きとして、楽しいのです。

殊に、京都市内の青年たちは、農山漁村の青年たちが、きびしい自然条件や、保守的な社会環境の中で、働きながら青年団を組織して、自分たちや、村や町の現在と将来について考えたり、研究会を開いたり、講師を招いて討論し、活動している。こういう仲間が身近かにいることに感動するのです。そして互いに質問や意見を出し合って、それぞの青年運動の経験に学ぶのです。交流会がたまたま「文化講座」の日と重なった時は、講師の先生のお話もあって、一層充実したものになるのです。

時には、青年と宗教をテーマに、自由討論をするのです。青年たちは宗教について無関心のようですが、例えば冠婚葬祭の問題について、一つ一つ具体的に話をすると、日常生活の中に宗教が意外と深く入り込んでいることに気付くのです。

身近かな問題である村祭りは、

社の祭禮で、市内、農村を問わず地域住民の楽しい年中行事でした。ところが戦争がだんだん激しくなることへの大人の干涉や、親の抵抗などを乗り越えてきた青年たちが、戦後になって漸くあちらこちらで、祭りの復活を見るようになります。

私が農村地域の出身でしたので、

田舎では村祭りといえば、青年団が神主さんからお祓いを受けて、神社の祭りの準備を手伝ったり、参道の掃除をしたり、いろんな店が出たり、何の娯楽もなかつた戦前は、お祭りは村民の唯一の楽しい休息の日だつた話をあげると、お祭りを経験した市内の青年たちは、太鼓をたたく練習をしたり、「みこし」をかついで町内をかけ廻つた経験などが話され、都市も農村も、宗教行事と祭りと住民が一つになつた楽しい話題に広がるのです。

そして我が国の家の宗教や氏子の問題。個人と宗教の問題。天皇は神ではないと言うこと。お寺や神社は何のためにあるのか。など神社は何のためにあるのか。など人間と宗教について若者らしい素朴な考え方や、批判的な意見が出て、そのたびに助言をしてあげると、宗教についてみんなが自由な立場で考え勉強するのです。

忘れることが出来ないのは、青

年の家を支援してくださった末川博、新村猛、重松俊明、島恭彦、岡本清一、前芝確三、星野元豊の大先生が、新しい時代を生きる青年たちのために、無償で講義をしたり、時には夜通して討論や座談会に参加されて、指導してくださったことです。青年の家に集う若者は幸せだなあと思つたものです。

時には、数名の先生が同時にころで、本堂を会場にしなければならないこともあります。青年たちはそれぞれの先生を囲んでお話を聞いたり、疑問を出したり、大学の講義とは異つた雰囲気の中で、若者たちの立場に立つて、分かり易く、それぞれの専門のお話をし下さるのですから、みんな楽しかつたと思います。

それに、交流会に出られた先生方は、京都市の青年と農山漁村の青年たちの、さまざま青年運動の経験交流が、とても生き生きしていく素晴らしい、若者はいいなあと喜ばれたことが思い出されるのです。

それにしても、当時有名な大先生が若者たちのために快く、無償で御協力、御指導くださつたことは、今日では想像も出来ないことだけに、とても有り難く、決して忘れるこ

とが出来ないのであります。

〈以下次号〉

(しがはら よしぶみ)

故人・元檀王法林寺住職)

京都のヴォーリズ建築探訪

奥村 直彦

一・ヴォーリズ

最近、滋賀県にある豊郷という小さな町の小学校校舎改築問題を通じて「北米出身の建築家ヴォーリズ」の名が全国に知られるようになった。これまで、主として建築家や建築愛好者、キリスト教界での知名度は高かつたが、一般には「知る人ぞ知る」という感じで、今ほどには知られていなかつたと言つてよい。

ウイリアム・メレル・ヴォーリズ(1880—1964)は、確かに「米国出身の建築家」であるが、それだけではなく、近江に「神の国」建設を夢見て「近江ミッショニング」(現・近江兄弟社グループ)を創立した人として知られている。彼は宣教師ではなく、北米Y.M.C.A.を通じて商業学校英語教師として来日。教師解任後、聖書の信仰原理の実

説は、知友の山形政昭氏の著作に委ねるとして、ここでは、京都に現存する主なヴォーリズ建築を訪ねながら、彼の生涯と思想を紹介していくことにする。なお、竣工年度等は山形氏の「ヴォーリズの建築」の他、ヴォーリズ建築事務所の「経歴書」、「作品集」によるが、必ずしも一致してはいない。

まず、京都のキリスト教会で、

ヴォーリズ建築によるものを見ると、その殆どは既に改築されて当時の姿を見られないものが多い。戦前、

明治末期から大正・昭和前期に建てられた主な教会名を挙げれば、

近江八幡で生涯を閉じた。

筆者は、永年その近江兄弟社学園で教育に携わったが、四十数年前の入社間もない頃、生前のヴォーリズに親しく面会してキリスト

教育について教えを乞うたこと

がある。後年、近江兄弟社財団本部に勤務し、本格的なヴォーリズ研究を始めてから既に二十余年になるが、その間、彼に関する数多くの論文と学会発表、講演や原稿執筆、N.H.K.テレビ／ラジオ放送等を行ってきた。最近は豊郷問題のためか、その依頼も増えている。

近江兄弟社グループ)を創立した

人として知られている。彼は宣教師ではなく、北米Y.M.C.A.を通じて商業学校英語教師として来日。教師解任後、聖書の信仰原理の実

の姿を記憶している人々は多い。

三・学校と病院

洛陽教会は当初旧新島邸の敷地に建てられ、今も新島会館に隣接し

Y.M.C.A.では、京都帝大学生Y.M.C.A.地塩寮と住宅、京都府立医大・学生Y.M.C.A.橘井寮(1912)、京都帝大学生Y.M.C.A.会館(1913)、京都Y.M.C.A.寄宿舎(1914)、京都Y.W.C.A.会館増築(1934)等で、全般的なY.M.C.A.会館建設ブームだった大正期のものが多い。中でも有名なのは京大学生Y.M.C.A.会館と地塩寮で、ヴォーリズ自身もしばしば訪れて学生と交流したこと

が伝えられている。

なお、三条柳馬場の京都Y.M.C.A.会館(1909)は、米国の富豪ワナメーカーの寄付により、設計者ドイツ人技師デラランダの代理監督として、ヴォーリズが最初に取り組んだ建築で、その中に建築設計監理事務所を設けたのが「ヴォーリズ建築設計事務所」の始まりである。ヴォーリズはその間、デビスら同志社の外国人教師宅で世話になっていたが、彼らから奨められ作詞したのが「同志社カレッジソング」(One purpose,Doshisha)であり、後には「社友」に推挙されている。

京都におけるヴォーリズの学校建築は、大阪、神戸、東京などに

較べると意外に少ないといえる。ただ、同志社に致遠館、書庫（1915）、啓明館（旧図書館）、寄宿舎（1918）、アーモスト館（1929）、宣教師住宅（1938）、新島遺品庫（1942）等があり、特にアーモスト館はコロニアルスタイルの建築として有名である。宣教師住宅は、アジアに目を向けるキリスト教学生たちの出入りする場に開放されている。なお、戦後は平安女学院高校の校舎建築（1951）も手がけている。

病院建築では、佐伯病院、堀内歯科（1926）など、京都YMCA理事を勤めた医師たちの病院を始め、個人病院が多い。

四・商業建築

ヴォーリズ夫人一柳満喜子の兄恵三が婿養子に入った広岡家は代々「加島屋」と称する豪商で、養母広岡浅子はクリスチヤン女性実業家として知られた。広岡家の主事業は加島銀行と加島信託、大同生命保険であり、一九二〇年、ヴォーリズは社長恵三の米国視察旅行に同行して社屋設計の構思を得たと思われる。即ち、加島銀行京都支店（1921）が建築され、翌年には大阪肥後橋に巨大な大同生命ビルを着工、一九二五年に竣工している。このビルは大阪のランドマークの

一つになっていたが、近年すつかり建て替えられた。なお、大同生

命京都支店は戦前に改築（1940）されている。

だが、京都のヴォーリズ建築で有名なのは、何と言つても、四条高倉の大丸デパート（1928）と、鳥丸丸太町角に通りを隔てて御所の西側にある、チューダー様式の下村止太郎邸（現・大丸ヴィラ）（1932）、そして四条大橋の鴨川畔にある八尾政レストラン（現・東華菜館）であろう。ヴォーリズと下村大丸社長との交流も深く、大阪心斎橋の大丸は今も、そのゴージャスなゴシックスタイルの勇姿を留めており、神戸大丸別館もヴォーリズ建築である。その点、大丸京都店は、

戦後ヴォーリズの手を離れて、ファサードを平凡なモダンデザインに変えてしまつたのが惜しまれる。ただ、内部に入れば、当初のヴォーリズ建築の雰囲気を留めていると言える。また、八尾政はビアホール、レストラン、中華料理店と変遷を経て今日に至つてゐるが、そこから見渡す東山と京都の街の風景は、昔と変わらない懐かしさを感じさせる。

五・個人住宅

前記下村邸も個人住宅の代表で

あるが、住宅で逸することのできないのが駒井邸（1925）である。

京都帝国大学教授駒井卓博士の私邸であったが、親族関係の会社の寮を経て今も記念館として維持さ

れている。ここからは間近かに比叡山の尖った峰が仰がれ、旧三高逍遙歌の一節「碎けて飛べる白雲の空には高し如意ヶ嶽」が想起される。ここが有名になったのは、滝川事件を扱つた、戦後の名画「わが青春に悔なし」の舞台に使われたことにもよる。筆者も、駒井邸を訪ねた時、映画中の滝川邸の場面が懐かしく思い出された。今、この駒井邸では、ヴォーリズ関係を含めた様々な文化サロンが開かれている。

その他、同志社や戦後の国際基督教大学総長湯浅八郎邸（1924）、船岡邸（京都工芸織維大学工織会館）（1927）など多数があるが、個人宅なので紹介は控えておきたい。

六・ヴォーリズの建築観

ヴォーリズは、建築家は、快適で健康を守る能率的な建物を求めてやまない建築主の意を汲む奉仕者となるべきで、自己の廣告塔や博物館向きの設計をすべきではないとし、「建物の風格は人間の人格と同じく、その外見よりもむしろ

内容にある」、校舎などにおいては「建物も教育するのだ」と述べている。

現在、問題になつてゐる豊郷小学校（1937）などは、関西学院や神戸女学院と同じく、キャンパス全体計画から設計されたものであり、近江商人丸紅の重役古川鉄治郎の私財寄付による東洋一の（公立）小学校として知られてきたものである。当時、体育館と講堂、プール、図書館を持つ公立小学校は稀有であり、さらに食堂や職員アパートも加えられていた。農村伝道に感心のあつた近江ミッショニンの思想からか、実習田、青年学級教室もあつたが、今回、無残に破壊されてしまった。ヴォーリズ建築には、カネとモノの機械的合理性と機能性だけの現代建築では得られない精神性があり、その教育的価値は、「我が子」だけの快適さ要求や、地元の政治的対立を超える大切なものを含んでゐる。

京都に遺るヴォーリズ建築についても、関係者たちがそれらの視点を忘れず、大切に見守り、維持管理されることを心から願つてやまない。（二〇〇三・三・三）
(おくむら なおひこ)

そのような経過で公開質問状が書かれてきたのですが、一昨年の一月に、五〇年ぶりの集まりをやつたときに、この公開質問状を書いた中岡君が、どういうつもりで書いたかということを語りました。

それは第一に人間として、今度の天皇の来かたが気に入らん、京都大学の正門のもうちょっと奥に吉田神社という神社があります。

正門から吉田神社までの間は百メートルもないのです。ところが、東大路から京都大学の正門までの間は、鋪装を全部やり直したのです。生け垣も全部きれいにしたのです。そこから先は、全然何もしていない。

ところが、この日、天皇の車が入ってきたときに、ある新聞社のそれから天皇が入っていくのは時計台のところで、法経の教室があるのですけれども、教室の方の壁は全然塗り替えないんです、天皇の通るところだけ壁を塗り替えたのです。これは未確認なのですが、れども、京都駅でも、同じようにして、柱のうち、一方は見えない、だから三方だけ塗つてあって、一

方は塗らなかつたのです。そういう事は中岡君にしてみれば、許せないという思いであつた、というのです。

それからもう一つは、天皇に対して「あなたは」という言い方をしていました。これはやはりユニークであつたと思ひます。恐らく天皇はあなたと呼ばれたことはないんじゃないかと思うのですが、彼は「人間宣言」をしたのだから、やっぱり同じ対等の人間として答えるべきだ、そういう立場で書いたのです。

ところが、この日、天皇の車が見ようといっぱい的人が来て、押し合いになつたのです。それでちょっと列が乱れた、別に騒ぐとかデモをやるというのではなくただけれども、騒ぎになつたといふことで警官隊が入つてきました。そこで、警察との間で若干もめたんだけれども、現場に居合わせた同僚はもつと作つてたんですけど、書いたのもありました。赤旗はなかつたんです。プラカードは四本あつた、大学当局の報告では四本です。実を言いますと、プラカードはもつと作つたらしい。その中には、どういうことが書いてあつたかというと、「天皇陛下万歳と残した声が忘らりよか」、これはご存

私の京大事件と 映画「わが青春に悔なし」（下）

小畑 哲雄

うので、松の木に登つた奴がいて、正門の横の松の木が折れるというハプニングが起きました。それぐらいい集まつていたんだけども、「君が代」にみんなは反撥したんですね。これはもう今の人たちには理解できないかも知れないけれども、私には、ものすごくあつたんですね。

そこへもつてきて、もう一つ、京大と学生と警察との間で約束がありました。天皇が来るということもつって、制服の警官が入つてくることはしない、と。交通整理のためにせいぜい私服の警官十数名にとどめる。ところが、市警本部の責任者によると、何か起こるだろうというので、近くに数百人、もうちょっと離れたところにも数百人待機させていたのです。そしてその警官が入つて来た。なぜ入つてきたかというと、天皇の車を見ようといっぱいの人たちが車の屋根にのぼり、赤旗を降り、インターネットショナルを歌つた」と新聞には、いろんなことが書かれています。「京大の学生は天皇の車の屋根にのぼり、赤旗を降り、

れども、逆に、むしろ学生が下がつたところに、警官が入つてきた。そこで、「平和を守れ」という歌が大合唱になつていつたのです。雨が降る中で、「平和を守れ」を、よく知らない歌だつたけれども、みんなで一生懸命に歌つて、いい歌だつた、というふうに思い出を今も語っています。

ところが、先程もちよつと言いましたように、その日はそれで終わつた。次の日の朝刊を見てみなびっくりしたのです。「京大デモ事件」として報道される。その後の国会の論戦などを見ると、「天皇陛下に対するデモをやつた不届きな奴」、こんな風になつてているんですね。歌だつた、というふうに思い出を今も語っています。

ところが、この日、天皇の車を入つてきたときに、ある新聞社の宣伝カーが、まるで今日の右翼の街宣車のような大きな声で「君が代」を鳴らして通つていった、それで京大の学生に「君が代」を歌わせようとしたのです。そのとき京大の学生は約二千人いた、これは、天皇をお迎えに出た、というよりも、天皇を見たかったのです。できるだけ見やすいところに行こうとい

燎原

知の方もあるかもしませんが、「露營の歌」という戦争中にあった歌の文句なのです。それが書いてあつた。たつた四本でした。それなのに、「京大プラカード事件」といふふうになる。

デモもなかつた、ただよう集まつた、集まつたのは、大学当局ができるだけ集まるように、と掲示したから集まつたわけですね。それが集会、だから不敬罪を適用しようと思つたんです。ところが不敬罪はなくなりました。結局、京都市公安条例違反ということにしよつたり無届け集会、無届けデモ、ということにしよう、新聞には今にも検察への呼び出しがあるだろう、今日にも逮捕者がいるだろう、というようなことが連日書いてあるのです。結局一二月の八日に、これは公安条例違反でやつても、裁判には勝てんとわかつたものだから、それつきりぱつと消えてしまつた。それまではたいへんな大騒ぎで、何も関係ないのに京大的学生というだけで、大阪で風呂屋の帰りに殴られた。われわれも公開質問状を数十万枚、印刷をして、全国にひろげていった。九州に冬休みに帰省する学生が、汽車の中ですつとまいていったんです。そしたら次の日の新聞に「京大生西

下す」と出てるんです。そうゆう大騒ぎになりました。

私は、後始末の責任者になつたわけだけれども、激励文とともに脅迫状もずい分きました。非常に

感動したのは、中国とイギリスから激励の手紙が来たことです。激励の手紙を下さつた方々に、私はお礼の手紙を書きました。その一人が今の私の妻なのです。天皇事件が私たちを結びつけた、という点では、私個人にとつてもたいへん大きな意味をもつた事件でした。

「わが青春に悔なし」に描かれていました

若者たちが、きな臭いにおいをもつと敏感に感じ取つてほしいなどと思います。かつての若者として、自身の話でもあつたと思って、皆青春の時代をほんとに逮捕や尾行や、さんとご一緒にこの映画を見たい

そういうのが付きまとつていた。

（おばた てつお
京都平和委員会常任委員）

二〇〇二年度 総会のお知らせ

●六月二二日（土）

午後一時三〇分～午後三時三〇分

●京都教育文化センター 一二〇五号室
(京大病院の南側)

小講演『アメリカとイラク・北朝鮮』

田北 亮介氏（龍谷大学名誉教授）

議事 会計報告・決算・予算・活動方針・
人事・その他

会員の皆様はもちろん会員以外の方たちの講演聴講を大歓迎します。ともに現在の情勢について存分に語り合おうではありませんか。

燎原文芸

須田 稔

夜の底で

一寸の虫　いのちあり　いのち歌う
無辜の民　いのちあり　くらし創る

恐怖と激痛に慄える　小さないのち

暗闇のなか　希望の光がほしいのに

襲いくる　火　　炎　　轟音　瓦礫　弾丸

「衝撃と恐怖」作戦と名づける傲慢

凶暴な殺傷と破壊の限りを尽すきなかに

鉄面皮に復興支援・人道支援を言いはなち

地獄をつくつたその手で天国をつくる偽善

欺瞞と強欲　浣神のきわみの　悪魔の化身

わたしは　まともな人間でありつづけたい
早春の夜の底　わたしは悲しみ怒っている

○三・四・五改補

編集後記

イラク戦争は米軍の圧倒的な軍事力の行使によってあっけなく終わりました。しかし戦争の大義名分とされた大量破壊兵器は発見されていません。こうなると米軍は世界に対する面上、自分の手で大量破壊兵器をでっち上げる可能性があります。そのような事態を防ぐためにはやはり国連の査察委員会がイラクで一刻も早く活動を再開する必要がありますが、米政府とそれに追随する日本政府は、イラクの治安状況が悪いから当分はできないといつてはいるようです。

だがあの圧倒的な軍事力を誇る米軍が査察委員会の護衛もできないなどということは信じられないではないですか。

インド洋に派遣された海上自衛隊の補給艦が米軍艦に給油したことは公表された事実です。おどろいたことにその石油は日本の財政的負担で供給されていました。日本はすでにイラク戦争にドップリと加担していたのです。

イラク戦争の軍事的決着がついに途端にまたまた有事法制がゴリ押されようとしています。折柄、

ました。結果はまだ分かりません。ただイラク戦争で米政府は先制攻撃を宣言し、実行しました。同じ論理でいえば、米軍の北朝鮮の攻撃がありうるわけです。日本政府はどこまで米政府の危険な世界戦略につき合つつもりなのでしょうか。

戦前・戦後の日本の反戦平和の運動を今あらためて想起し、一そくの力をそそがねばならない時が来たようです。



TEL
FAX ○七五一一三〇二二一〇七
〒六〇六一八一〇七
京都市左京区高野東開町
一一三 第三住宅
三三一三〇二 井手 幸喜
米・中・朝の北京会談がはじまり